

令和2年度 事業計画 (案)

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

I 公益目的事業

[公1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

(A) 令和2年度継続する研究専門委員会

- 1) 中性子線を用いたコンクリートの検査・診断に関する研究委員会 (令和元-2年度)
- 2) 3Dプリンティングによるコンクリート構造物構築に関する研究委員会 (令和元-2年度)
- 3) 火山性堆積物のコンクリート用混和材としての高度利用に関する研究委員会 (令和元-2年度)

(B) 令和2年度新規の研究専門委員会

- 4) 実構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会 (令和2-3年度)
- 5) コンクリート構造物の構造・耐久性シミュレーションにおける検証と妥当性確認に関する研究委員会 (令和2-3年度)
- 6) アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会 (令和2-3年度)
- 7) 性能評価型耐震設計に用いるコンクリート構造物の非線形モデル研究委員会 (令和2-3年度)
- 8) 内部膨張反応によるコンクリートの膨張評価と予測に関するFS委員会 (令和2年度FS)

(2) 技術委員会所管の委員会

- 1) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会 (令和元-2年度)
- 2) コンクリート圧送工法指針原案作成委員会 (令和元-2年度)
- 3) コンクリート基本技術調査委員会 (令和2-3年度)
- 4) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会 (令和2-3年度)
- 5) マスコンクリートのひび割れに関する調査委員会 (令和2-3年度)

6) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針改訂原案作成委員会 (令和 2-3 年度)

(3) 支部研究委員会 (確定している委員会のみ記載)

- 1) (北海道支部) 寒冷地における膨張材使用コンクリート調査研究委員会 (令和元-2 年度)
- 2) (北海道支部) 北海道コンクリート秘話調査研究委員会 (第二期) (令和元-2 年度)
- 3) (北海道支部) 極限解析による劣化 RC 部材の耐力評価に関する研究委員会 (令和 2-3 年度)
- 4) (東北支部) 東北地方のコンクリート構造物の品質・耐久性確保に関する調査研究委員 (第二期) (令和元 - 3 年度)
- 5) (東北支部) フライアッシュおよびもみ殻灰のコンクリートへの有効利用に関する研究委員会 (令和元 - 3 年度)
- 6) (東北支部) 表層品質評価委員会 (令和元 - 3 年度)
- 7) (東北支部) コンクリートの施工の良否が材料劣化に及ぼす影響に関する調査研究委員会 (令和元 - 3 年度)
- 8) (近畿支部) 高流動性コンクリートの実用化促進に関する研究委員会 (令和元-2 年度)
- 9) (近畿支部) コンクリート試験の省力化に関わる検討委員会 (令和元-2 年度)
- 10) (中部支部) 表面含浸材に関する調査研究委員会 (令和元-2 年度)
- 11) (中国支部) 既存 RC 実部材の性能調査委員会 (令和元-2 年度)
- 12) (中国支部) RC 構造物の長寿命化を視野にとらえたライフタイムモニタリング検討委員会 (令和元-2 年度)
- 13) (四国支部) 四国の生コン技術力活性化委員会【第 5 期】 (令和 2-3 年度)
- 14) (四国支部) 材料分離が生じたコンクリート中の鉄筋腐食性状の評価委員会 (令和 2-3 年度)
- 15) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設委員会)
- 16) (九州支部) 管理者直轄による簡易補修方法の提案と評価に関する研究専門委員会 (令和元-2 年度)
- 17) (九州支部) 非破壊試験による表層部コンクリートの品質評価に関する研究専門委員会 (令和 2-3 年度)

○継続する研究専門委員会の計画

(1-A-1)JCI-TC191A 中性子線を用いたコンクリートの検査・診断に関する研究委員会

(令和元-2 年度)

本研究委員会は、X 線よりも強い透過能力を有し、コンクリート中の水分や塩分の分析、空隙の検出が非破壊で可能な中性子線を、分析や検査、診断に適用する技術を発展、成立させること

を目的とする。具体的には、①「現場」という制約条件のもとで、中性子線測定に求められることと実施可能なことの双方を明らかにし、②「現場」という制約条件のない試験室内での、中性子線測定による様々な可能性を探るとともに、③上記①と②の成果をもとに、変状箇所のスクリーニングのためおよび構造物内部のより詳細な状態を把握するために中性子線を用いた構造物の調査、診断シナリオの作成を目指す。

(1-A-2) JCI-TC192A 3D プリンティングによるコンクリート構造物構築に関する研究委員会
(令和元-2年度)

本研究委員会は、近年発展が著しい3Dプリンティング技術に着目し、建設分野および他分野における技術の現状について、国内外の動向に関する情報を広く収集する。そのうえで、3Dプリンティング技術の適用対象を具体的に検討し、そのメリットやデメリットを挙げ、今後必要となる研究と技術の適用や普及に当たっての課題と解決策について検討することを目的とする。具体的には、構造面(WG1)、材料面(WG2)から3Dプリンティング技術のコンクリート構造物への適用について検討すると同時に、他産業における技術開発の最新動向(WG3)を調査する。

(1-A-3) JCI-TC193A 火山性堆積物のコンクリート用混和材としての高度利用に関する研究委員会
(令和元-2年度)

本研究委員会は、資源循環型社会および低炭素社会の実現に資するために、国内に豊富に埋蔵する火山性堆積物をコンクリート用混和材として利用するための技術・手法を提案することを目的とする。今年度は、原材料WG(WG1)と利用WG(WG2)の2つのWGにおいて、混和材として利用可能性のある様々な火山性堆積物に関して、国内外での分布・埋蔵量、それらの物性・化学成分特性などの情報に関するデータベースを構築するとともに、火山性堆積物を原料としたコンクリート用混和材の製造手法、コンクリート用混和材としての利用手法の現状に関して調査を行う。

○新規の研究専門委員会の計画

(1-B-1) JCI-TC201A 実構造物の劣化予測における学術研究の役割とその成果の活用に関する研究委員会
(令和2-3年度)

本研究委員会は、構造物の維持管理において必要となる劣化予測の情報について、必要な精度で提供する方法をまとめることを目的とする。維持管理の劣化予測で使用する工学モデルと精緻な環境・現象評価の結果を、実構造物の調査結果を用いて結びつける方法を検討することで目的達成を目指す。具体的には、構造物の劣化に関連する既往の学術成果(理論的、現象論的な成果)および調査手法等を整理し、この結果を実構造物の劣化予測に活用する方法について検討する。維持管理で実施する調査と劣化予測のあるべき姿から、設計へフィードバックすることも検討する。

(1-B-2) JCI-TC202A コンクリート構造物の構造・耐久性シミュレーションにおける検証と妥当性確認に関する研究委員会
(令和2-3年度)

本研究委員会は、コンクリート工学分野における構造性能評価や長期耐久性評価のためのシミュ

ュレーションを対象として、それらの質の保証や信頼性の向上を目的とした検証と妥当性確認 (Verification & Validation, V&V) の方法論や課題を明確にするとともに、V&V を行う際の具体的な手順を提示することを目的とする。具体的には、①国内外で提示されている既存の V&V 手法のコンクリート工学分野への適用性の検討、②コンクリート工学における材料ならびに構造実験で生じる結果のばらつきの定量化と不確実性の整理、③コンクリート工学分野、特に構造性能評価や長期耐久性評価におけるシミュレーションの V&V の体系化と実施の手引きを作成する。

(1-B-3)JCI-TC203A アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動に関する研究委員会 (令和 2-3 年度)

本研究委員会は、アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の曲げ挙動 (弾性限界、曲げ降伏、靱性等) に関する現在の知見を調査し、それら算定法の精度を確認の上、必要に応じさらに精度の良い算定法を検討し、この構造を普及することを目的とする。本年度は、各指針や規準、研究論文の調査を行い、アンボンドプレストレストコンクリート構造部材の知見を確認し、既往実験結果を用いて各提案算定法の精度を確認する。

(1-B-4)JCI-TC204A 性能評価型耐震設計に用いるコンクリート建造物の非線形モデル研究委員会 (令和 2-3 年度)

本研究委員会は、建築・土木構造における、コンクリート建造物の性能評価型耐震設計に用いる非線形地震応答解析のための部材と架構のモデルを対象とした、オープンソースソフトウェア、市販ソフトウェア、一貫設計ソフトウェアの調査を行い、適用範囲、モデル化、設計クライテリア、信頼性等の観点を比較検討する。また、既発表論文・報告により研究と実務における非線形モデルの動向を調査し、代表的な設計用モデルの精度評価を行う。さらに、ACI の関係委員会 (ACI369・ACI374 委員会等) と情報交換を行い日米で性能評価型耐震設計の知見を相補い、我国の耐震設計の実務と将来の発展のための研究の方向性についての示唆を取りまとめる。

(1-B-5)JCI-TC205F 内部膨張反応によるコンクリートの膨張評価と予測に関する FS 委員会 (令和 2 年度 FS)

本 FS 委員会は、アルカリシリカ反応 (ASR)、エトリンタイトの遅延生成 (DEF)、骨材中の硫化鉱物の酸化によるエトリンタイト生成 (SOE) といった内部膨張反応 (ISR) を対象とし、これらに共通する基礎理論を改めて議論した上で ISR に関するリスク評価手法を提示することを目的とする。具体的には、ASR/DEF の膨張予測に関する国内外最先端の予測モデルを収集・分析し、暴露試験や分析結果との比較から、今後モデリングすべきメカニズムの明確化と方向性の提示を行う。また、DEF/SOE の膨張試験法の将来的な整備に向け、膨張ならびに化学反応の基礎データ収集を行う。

○技術委員会所管の委員会の計画

(2-1)危急存亡状態のコンクリート建造物対応委員会

本委員会は、前年度までの 3 か年にわたる活動に引き続き、共通試験 WG およびモニタリング WG にて活動を行う。共通試験 WG では、「端島 (通称『軍艦島』) における補修材の効果検証に

関する共通試験実施についての基本覚書」に則って、端島において様々な補修を施して暴露した鉄筋コンクリート試験体を対象に、定期的に劣化の進行状況や物理的・化学的な変化を観察・測定し、その結果に基づく分析から、塩害劣化の進行・抑制のメカニズムおよび補修効果を検討する。モニタリング WG では、端島に残存する自然倒壊が間近に迫っている建築物（30号棟）を対象に実施されている遠隔地モニタリングの結果に基づく分析・解析を行い、鉄筋コンクリート構造物の自然倒壊メカニズムについて検討を行う。また、前年度までの3か年にわたって活動した委員会の成果をコンクリート工学などの学会誌を通して広く公表する。

(2-2)コンクリート圧送工法指針原案作成委員会

本委員会は、平成29～30年度に活動した「コンクリート圧送技術調査委員会」において調査した成果を引き継ぎ、「コンクリート圧送工法ガイドライン2009 および解説」の改正版となる「(仮称)コンクリート圧送工法指針」を作成するべく活動を行っている。令和2年度は引き続き指針原案作成を行い、年度末までに指針原案を完成させる。

(2-3)コンクリート基本技術調査委員会

本委員会は、コンクリート工事における「準備工」、「製造」、「コンクリート工」および「品質管理・検査」などのコンクリート技術ごとにWGを編成し、それぞれに関連する基本技術と新技術を整理し情報発信を行うことを目的としている。令和2年度は、準備工WGで鉄筋工の検討を、品質管理・検査WGで品質管理および検査のあり方の検討を行うほか、次に調査すべきテーマとして「コンクリートの運搬」を取り上げ、今後検討を進める予定である。また、報告会を開催し、製造WGで取りまとめたコンクリート製造時の品質管理と検査のあり方と、コンクリート工WGで取りまとめたコンクリートの打込み上面の仕上げについて、報告書を頒布する。

(2-4)コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

本委員会は、これまでに開発してきたLECCAシリーズを活用した検討事例集の整備を継続する。昨年度までに実施してきた講習会で収集したユーザーニーズに基づき、検討事例集の整備と今後の開発について検討を進めるとともに、ホームページ等を活用した検討事例の公開等についても検討する。さらなるユーザーニーズに収集のために、引き続き講習会の開催も検討する。

(2-5)マスコンクリートのひび割れに関する調査委員会

本委員会は、次回の指針改訂に向けて前回の改訂内容の見直しのための検討を行うことを目的とする。令和2年度は、①令和元年度に実施したひび割れに関するアンケート結果の整理を行う。アンケート結果およびひび割れ制御指針2008で実施した解析結果に対する新たに取得した設計用値を用いた再解析並びにそれらの結果に基づく、ひび割れ発生確率の見直しのための検討を行う。②温度影響を考慮したひび割れ発生時強度、構造体強度を用いた引張強度発現式、若材齢時クリープを考慮した有効ヤング係数の見直し、令和元年度に実施した外気温と打込み温度に関するアンケート結果のとりまとめを行う。③「マスコンクリートソフト作成委員会」におけるひび割れ幅解析手法および湿気移動解析手法の指針への取込みの可能性について検討を行う。

(2-6)コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針改訂原案作成委員会

本委員会は、本指針の改訂版の発行準備に向けた活動を実施する。また、質問対策や内容修正

については、前年度に引き続き必要に応じた対応を行っていく。具体的には、以下の活動を予定している。

① 次回改訂版の発行のための準備と内容の検討

以下の幹事会およびWGを設置し、具体的な活動を行う。

第1章（全体調整）幹事会

第2章（調査）改定WG

第3章（原因推定）改定WG

第4・5章（評価・判定）改定WG

第6章（補修・補強）改定WG

事例WG

ソフト改定WG

② 国内・海外事例の情報収集

③ ひび割れ判定ソフト 2013年度版に対する質問や修正対応と改訂にむけた内容改善の検討

2. 標準化事業

標準化委員会所管の委員会

(1) 規準・指針管理委員会

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

(3) ISO/TC71 対応国内委員会

(1) 規準・指針管理委員会

研究専門委員会等から提案および審査の申請がなされた規準原案・指針原案に対し、「日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規程」に基づく審査を行い、妥当なものについては理事会へ付議する。また、制定後5年以上経過した JCI 規準の改廃の要否について調査・検討を行う。

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

1) 主務大臣に改正申出済みの以下の規格について、改正公示に向けて日本産業標準調査会および日本規格協会との調整を図る。

① JISA 1101 コンクリートのスランプ試験方法

② JISA 1150 コンクリートのスランプフロー試験方法

③ JISA 1158 試験に用いる骨材の縮分方法

2) 次の規格の改正案について審議し、審議終了次第改正を主務大臣に申し出、改正公示に向けて日本産業標準調査会および日本規格協会との調整を図る。

① JISA 1107 コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法

② JISA 1114 コンクリートからの角柱供試体の採取方法及び強度試験方法

③ JISA 1118 フレッシュコンクリートの単位容積質量試験方法及び空気量の容積による試験方法（容積方法）

- ④ JISA 1123 コンクリートのブリーディング試験方法
- ⑤ JISA 1134 構造用軽量細骨材の密度及び吸水率試験方法
- ⑥ JISA 1135 構造用軽量粗骨材の密度及び吸水率試験方法
- ⑦ JISA 1153 コンクリートの促進中性化試験方法
- ⑧ JISA 1191 コンクリート補強用連続繊維シートへの引張試験方法
- ⑨ JISA 1192 コンクリート用連続繊維補強材への引張試験方法
- ⑩ JISA 1193 コンクリート用連続繊維補強材の耐アルカリ試験方法

3) 上記以外の 2022 年度に見直し期限を迎える規格について、改正要否の検討を行う。

(3) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) 9 月に韓国・ソウルで予定されている ISO/TC71 総会および各 SC の会合に SC 議長, SC 幹事, WG コンビナーおよび関連分野のエキスパートを派遣し, 日本が主導する規格開発の説明や, 規格作成に日本の意見を反映させる。
- 2) ISO/TC71 において, 次の SC の議長, 幹事, コンビナー, エキスパート (WG), および SC 担当委員の役割を遂行する。
 - ① SC1 (コンクリートの試験方法) : エキスパート (WG)
 - ② SC3 (コンクリートの製造及び施工) : コンビナーおよびエキスパート (WG)
 - ③ SC4 (構造コンクリートの要求性能) : エキスパート (WG)
 - ④ SC5 (コンクリート構造物の簡易設計標準) : コンビナーおよびエキスパート (WG)
 - ⑤ SC6 (コンクリートの新しい補強材) : 議長, 幹事, コンビナーおよびエキスパート (WG)
 - ⑥ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修) : 議長, コンビナー, エキスパート (WG), ad-hoc 委員会コンビナー/共同コンビナーおよびエキスパート
 - ⑦ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント) : 議長, 幹事, コンビナーおよびエキスパート (WG)
 - ⑧ TC71/WG1 (コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント) : コンビナーおよびエキスパート
- 3) 国内関係機関と連携し, ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。
- 4) 日本から提案する次の ISO 規格案について, 国内外において情報収集・意見収集を行うとともに, 各国との調整を行い, 早期の規格化を図る。

(新規)

- ① コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント (構成材料及びコンクリートの製造, コンクリート構造物の施工, リサイクルを含む最終段階)
- ② コンクリート構造物の維持補修に関する ISO 16311-1 (改正)

(継続)

- ① コンクリートの発注・製造・品質管理に関する ISO 22965-1 及び ISO 22965-2 (改正)
- ② 繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強—試験方法 ISO 10406-1 及び ISO 10406-2 (改正)

- ③ セメント系材料を用いた補修補強工法に関する規格
 - ④ コンクリートの利用に関するガイドライン
 - ⑤ コンクリート構造物の地震後継続利用のための設計原則に関する規格
 - ⑥ CFRP 帯板材に関する規格
 - ⑦ コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強ガイドライン
 - ⑧ コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントに関する規格
- 5) ISO/TC156/SC1 (Corrosion control engineering life cycle) のリエゾンマネージャーを務める。

3. 国際化事業

- (1) *fib* に代表委員を派遣する。
- (2) ACI に代表委員を派遣する。
- (3) RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。
- (4) ACF へ代表委員を派遣するとともに、会長国として ACF の諸事業活動を積極的に支援する。
 - 1) ACF PVP 会議 (正副会長会議) : 5 月 15 日 (金) (タイ・バンコク)
 - 2) 第 9 回 ACF 国際会議, ACF 総会・Executive Council 会議・技術委員会 : 11 月 (タイ・プーケット)
 - 3) ACF 主催 フォーラム・セミナー (サステイナビリティ関係) : 日時未定
- (5) JCI-ACI Collaboration Committee において, ACI と協力して第 5 回 JCI-ACI ジョイントセミナー開催の準備を行う。
- (6) 8 月 27 日 (木) ~29 日 (土) に福岡で開催される第 6 回建設材料に関する国際会議 (The Sixth International Conference on Construction Materials: ConMat'20) の実行委員会にて開催の準備を行う。
- (7) 2022 年 9 月に開催する RILEM Annual Week に向けて, 同会議実行委員会を設置し, 開催の準備を開始する。

4. 受託研究事業

- (1) 国際標準の開発を目的とした次の受託研究業務を ISO/TC71 対応国内委員会にて実施する。
 - 1) 資源循環と CO₂削減を目的としたコンクリート及びコンクリート構造物のライフサイクルの各段階における省エネルギー推進に関する国際標準化
 - 2) 社会のレジリエンスに関するコンクリート技術の国際標準化
 - 3) JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート) と調和し国際市場性に富む ISO 22965 (Concrete) の標準化
- (2) コンクリートのライフサイクル全般に係る重金属等に関する調査を行い, コンクリートに要求される環境安全性, コンクリートに用いる粉体系材料の環境安全性に関する基本的な考

え方を取り纏める。

5. 出版事業

- (1) 第53回コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'20」
- (2) コンクリート技士・コンクリート主任技士研修会テキスト「コンクリート技士・主任技士研修テキスト'20」
- (3) コンクリート診断士研修会資料「コンクリート診断士研修会資料'20」
- (4) コンクリート診断士講習会テキスト「コンクリート診断技術'21」
- (5) 英文ジャーナル“Journal of Advanced Concrete Technology”（電子公開）
- (6) コンクリート工学年次論文集 第42巻2020年（DVD版）
- (7) Technical Committee Reports 2020（JCI研究委員会報告書要旨：電子公開）
- (8) 次の研究報告書を刊行する。
 - 1) 「有害廃棄物・放射性廃棄物処分へのセメント・コンクリート技術の適用研究委員会」報告書
 - 2) 「既設コンクリート構造物の予防保全を目的とした調査・診断・補修に関するシンポジウム」論文集・委員会報告
 - 3) 「接合部を有するプレキャスト・プレストレストコンクリート構造の設計法研究委員会」報告書
 - 4) 「イノベーション戦略委員会」報告書
 - 5) 「コンクリート基本技術調査委員会 製造WG」報告書（コンクリート製造と品質管理・検査のあり方）
 - 6) 「コンクリート基本技術調査委員会 コンクリート工WG」報告書（打込み上面の仕上げの要領）

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

「コンクリート工学」を毎月1回刊行して会員に頒布する。また、会員には発刊1年後に電子公開し、非会員には3年後に電子公開する。

年3回の特集号のテーマは以下のとおり予定している。

- | | |
|------------------------------|----------|
| 1) 首都圏のインフラストラクチャーを支えるコンクリート | 2020年5月号 |
| 2) 防災・減災対策に貢献するコンクリート（仮） | 2020年9月号 |
| 3) （未定） | 2021年1月号 |

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を電子公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。社会一般に向けた啓蒙活動として、広報委員会のもとでJCIホームページの内容向上を図るとともに、会誌「コンクリート工学」、パンフレット（和文、英文）等により本学会の活動について広報活動を行う。

(2) 普及活動

普及委員会のもとに以下の専門委員会を設置し活動する。

1) マスコンクリートソフト普及委員会

温度応力に加えて、湿気移動を考慮した乾燥収縮および自己収縮を考慮した3次元応力解析ソフトJCMAC3、初期応力を考慮した3次元保有耐荷力解析ソフトJCMAC3-U、2次元による応力解析およびひび割れ幅解析ソフトJCMAC1・2のサポートならびに普及を図ることを主な事業活動とする。令和2年度の活動予定は以下のとおりである。

① JCMAC3, JCMAC3-U のバージョンアップ

- ・全材齢時における乾燥収縮およびその収縮ひび割れ幅の予測精度向上
- ・任意の構造形状における初期ひび割れ幅解析の精度向上

② JCMAC3, JCMAC3-U およびJCMAC1・2 のサポート

③ JCMAC3 技術セミナー（2回）の開催

④ JCMAC の海外版（英語版、台湾版）作成に向けての準備作業

⑤ JCMAC の普及活動の一環として、台湾コンクリート学会と、技術移転あるいは技術共同開発の検討を行うためのワークショップ、テクニカルミーティングの開催

(3) 電子情報化

情報コミュニケーション委員会において、本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い、定期的な更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。活動予定は以下のとおりである。

1) 月刊コンクリート技術（一般向けコンテンツ）の公開

2) 増刊コンクリート技術（会員向けコンテンツ）の会員専用ページでの公開

3) メールニュースの作成および配信

4) コンクリート基本技術（不具合事例）の紹介を会員専用ページに電子公開

5) 研究委員会ホームページの改訂検討

6) ホームページを活用したコンクリートに関する技術や研究成果の普及に向けた取組み

7) ホームページを活用した広報に関する方策の検討

8) イメージアップ広報戦略検討委員会の検討結果に基づいて、今後継続的にホームページの整理・改訂を行う。特に、リニューアル完成に向けたロードマップの作成とリニューアル案の詳細化を行う。

8. 関連学会との協力活動

日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」および日本学術会議「防災学術連携体」に委員を派遣するほか、「建設系 7 学会会長会議」に参画するなど、他学協会との協力活動を行う。

9. 助成金事業

助成金制度規則に基づき、コンクリートに関する研究助成およびコンクリートに関する国際会議参加助成を行う。助成の件数は、応募件数および収支状況等を勘案し、適切な数とする。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2020（広島）を7月8日（水）～10日（金）の3日間、広島国際会議場で開催する。

- 1) 第42回コンクリート工学講演会
- 2) 生コンセミナー：テーマ「これからの生コンを語ろう！あなたが変わる生コンクリート」
- 3) 特別講演会：講師 志賀賢治氏（広島平和記念資料館 前館長）
演題 「広島平和記念資料館の軌跡と課題」
- 4) 見学会：2コースを予定
- 5) 懇親会：ANA クラウンプラザホテル広島

2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

第53回コンクリート技術講習会を10月に東京をはじめ全国7都市8会場において開催する。

(2) 研究委員会

研究委員会所管の報告会, シンポジウムを次のとおり開催する。1)～3)の研究専門委員会報告は, 平成30年度から令和元年度に活動した研究専門委員会が報告会あるいはシンポジウムを実施するために4月から9月まで設置期間を延長して実施する。

- 1) 「有害廃棄物・放射性廃棄物処分へのセメント・コンクリート技術の適用研究委員会」報告会
日 時：9月25日（金）時間未定
場 所：日本コンクリート工学会 会議室
- 2) 「既設コンクリート構造物の予防保全を目的とした調査・診断・補修」に関するシンポジウム

日 時：9月15日（火）10:00-17:00

場 所：品川区立総合区民会館 きゅりあん 小ホール

3) 「接合部を有するプレキャスト・プレストレストコンクリート構造の設計法研究委員会」
報告会

日 時：9月29日（火）13:00-17:00

場 所：日比谷図書文化館 B1F コンベンションホール

(3) 技術委員会

技術委員会所管の報告会，講習会を次のとおり開催する。

1) 「コンクリート基本技術調査委員会」報告会

日 時：5月29日（金）12:30-16:40

場 所：日比谷図書文化館 B1F コンベンションホール

2) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト（LECCA シリーズ）講習会

日 時：未定

場 所：未定

3) 「コンクリートサステナビリティ委員会」報告会

日 時：未定

場 所：未定

4) 「コンクリートのひび割れ調査，補修・補強指針」講習会

日 時：未定

場 所：鳥取（会場未定）

(4) 広報委員会

広報委員会所管のシンポジウムを次のとおり開催する。

1) 「イノベーション戦略委員会」シンポジウム

日 時：11月27日（金）時間未定

場 所：未定

(5) 普及委員会

普及委員会所管のセミナーを次のとおり開催する。

1) 「マスコンクリートソフト普及委員会」セミナー

① JCMAC3 初級者セミナー

日 時：未定

場 所：未定

② JCMAC3 中級者セミナー

日 時：未定

場 所：未定

(6) 支部

支部主催の講演会，講習会，報告会を次のとおり開催する。（確定している項目のみ記載）

- 1) (北海道支部) 総会特別講演会
日 時 : 5月20日 (水)
場 所 : ポールスター札幌
演 題 : 未定
講 師 : 杉山隆文氏 (北海道大学大学院工学研究院・教授)
- 2) (東北支部) 「東北地方のコンクリート構造物の品質・耐久性確保に関する調査研究委員会
報告会
日 時 : 5月20日 (水)
場 所 : 未定
演 題 : 未定
講 師 : 未定
- 3) (関東支部) 支部総会特別講演会
日 時 : 5月14日 (木)
場 所 : 日比谷コンベンションホール (大ホール)
演 題 : 未定
講 師 : 未定
- 4) (中部支部) 支部活動報告会特別講演会
日 時 : 5月19日 (火)
場 所 : 名古屋大学ESホール
演 題 : コンクリート技術の発展と今後
講 師 : 市之瀬敏勝氏 (名古屋工業大学)
講 師 : 畑中重光氏 (三重大学教授)
- 5) (近畿支部) 支部総会特別講演会
日 時 : 5月29日 (金)
場 所 : 大阪科学技術センター
演 題 : 未定
講 師 : 未定
- 6) (四国支部) 支部総会特別講演会
日 時 : 4月15日 (水)
場 所 : 高松市内ホテル
演 題 : (仮) 桐朋学園大学調布キャンパス1号館 (日本建築学会賞)
講 師 : 向野聡彦氏 (日建設計)
- 7) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会活動報告①
日 時 : 4月15日 (水)
場 所 : 高松市内ホテル
演 題 : 「養生温度による強度の変化について」 (仮題)

- 講 師：山内良馬氏（愛媛県立東予高等学校）
- 8) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会活動報告②
- 日 時：4月15日（水）
- 場 所：高松市内ホテル
- 演 題：第13回コンクリート甲子園
- 講 師：尾寄秀典氏（香川県立多度津高校）
- 9) (四国支部) コンクリートの品質向上を目指したCUS利用普及のための研究委員会の成果報告会
- 日 時：9月4日（金）
- 場 所：徳島大学理工学部工業会館 2F メモリアルホール
- 演 題：未定
- 講 師：未定
- 10) (四国支部) 四国における新設コンクリート構造物の品質確保の実践に関する研究委員会の成果報告会
- 日 時：6月22日（月）
- 場 所：香川大学創造工学部
- 演 題：未定
- 講 師：未定
- 11) (四国支部) 生セミナー i n 松山
- 日 時：未定
- 場 所：未定
- 演 題：未定
- 講 師：未定
- 12) (中国支部) 支部総会特別講演会
- 日 時：5月15日（金）
- 場 所：広島工業大学広島校舎
- 演 題：「次世代に引き継ぐコンクリートの課題と提案」
- 講 師：十河茂幸（近未来コンクリート研究会）
- 13) (九州支部) 支部活動報告会特別講演会
- 日 時：5月29日（金）16:20-17:20
- 場 所：オリエンタルホテル福岡
- 演 題：デジタル技術によりもたらされる構造物の設計・施工・維持管理の革新
- 講 師：石田哲也氏（東京大学大学院）

3. 国際会議

以下の国際会議を開催する。

- (1) The Sixth International Conference on Construction Materials: ConMat'20 を、8月27(木)～29日(土)に福岡国際会議場にて開催する。

[公3 表彰事業]

1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

- (1) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞(論文賞)」を贈り表彰する。
- (2) 本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同(技術賞)」を贈り表彰する。
- (3) コンクリート構造物の美的価値、創造性および環境との調和において技術面も含めて優れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同(作品賞)」を贈り表彰する。
- (4) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同(奨励賞)」を贈り表彰する。
- (5) 本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同(功労賞)」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

以下の5つの支部において支部表彰を行う。

- (1) 支部功績賞、支部優秀学生賞の対象者を募集し、支部のコンクリート工学の発展に著しい貢献をした者および優れた研究成果をあげた学生に対してそれぞれ表彰する。(北海道支部)
- (2) 論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。(東北支部)
- (3) 支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の40歳未満の著者に対して表彰する。(近畿支部)
- (4) コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター認定者」とする。(中国支部)
- (5) 九州・沖縄地区の大学、大学院、高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生、修了生に支部長賞を与える。(九州支部)

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・コンクリート主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・コンクリート主任技士試験

コンクリート技士・コンクリート主任技士試験を11月29日(日)、全国9都市において実施する。

(2) コンクリート技士研修会・コンクリート主任技士研修会

コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士・コンクリート主任技士研修会を、登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート技士・コンクリート主任技士登録者および未登録者を対象として、7月1日(水)から9月30日(水)にかけて、全国23都市41会場において実施する。

(3) コンクリート技士・コンクリート主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士・コンクリート主任技士研修会を受講し、登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート技士・コンクリート主任技士試験合格者の申請により登録を行う。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

コンクリート診断士講習をeラーニング形式にて、3月16日(月)から5月11日(月)にかけて実施する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月19日(日)、全国9都市において実施する。

(3) コンクリート診断士研修会

コンクリート診断士制度に基づくコンクリート診断士研修会を、登録有効期間(4年間)満了となるコンクリート診断士登録者および未登録者を対象として、9月から10月に全国7都市10会場において実施する。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士研修会を受講し、登録有効期間(4年間)満了となる登録者の更新および未登録者の登録を行う。また、コンクリート診断士試験合格者の申請により登録を行う。

3. 資格・講習委員会

各資格関係委員会での検討内容を審議、承認を行う。また、国土交通省技術者資格の更新を行うとともに、必要に応じて登録への対応を行う。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ2020

コンクリート工学年次大会 2020（広島）と併行して、コンクリート関連企業および団体により、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

Ⅲ その他

1. 名誉会員の表彰

定款第 12 条および関連する内規に基づき、定時社員総会の決議を経て、本学会の目的達成に多大な貢献をした会員に、名誉会員の称号を贈る。

2. 終身会員およびフェロー会員の表彰

定款第 12 条および関連する内規に基づき、理事会の決議を経て、コンクリート工学の見識に優れ、本学会の活動を長年にわたり支援した会員には終身会員の称号を、また、コンクリート工学の見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし社会に貢献した会員には、フェロー会員の称号を贈る。

3. 定款・規則改定

定款の改定、学会規則の改定に関して審議し、理事会に付議する。

以上